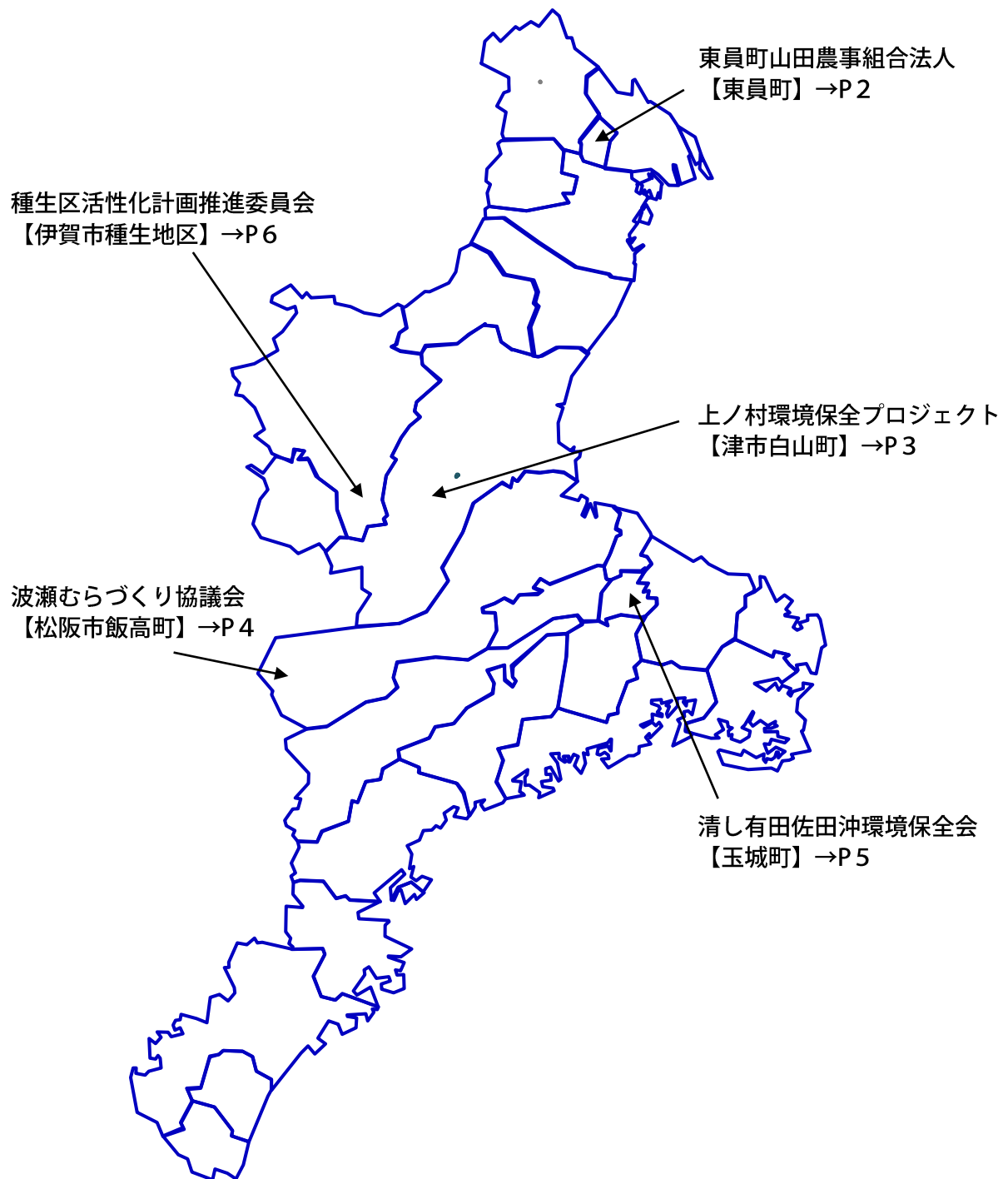


# 実施地域のご紹介



【本資料に関するお問合せ・研修のお申込み先】

NPO 法人Mブリッジ (担当：中川)

TEL：0598-23-8400 FAX：0598-23-8488 Mail：csr@tsutaetai.jp

# 東員町山田農事組合法人【東員町】

## 地域を表すキーワード

- ☑都市部の農業
- ☑小規模農地の有効活用
- ☑新規作物への挑戦
- ☑販売方法の検討



## 地域・組織の概要

・三重県北部に位置する東員町。桑名市・四日市市に隣接し、名古屋へも約 30km と近隣都市からのアクセスが良く、近年ではベッドタウンとして宅地化が進みつつありますが、地域内には昔から続く農地もたくさんあります。山田地区は東員町の中心に位置し、集落内には東員町役場や三岐鉄道の東員駅がある混在化が進んだ都市近郊農村です。

・「東員町山田農事組合法人」は、集落の自然環境・農地の維持、農用地の有効利用を目的に、農家 11 名が中心となり平成 28 年 5 月に設立されました。

## 地域からの呼びかけ

### ◆集落の農地は自分たちで守ろうと、スタートしたばかりの団体です

かつて集落内には農家が約 100 軒ありましたが、現在は兼業農家を含め半数近くまで減少しています。現状を放置すると、米価低迷や兼業農家の高齢化により、集落内の農地が耕作放棄地化する恐れがありました。そこで集落から耕作放棄地を出さないようにするため農家の有志が立ち上がり法人を設立しました。

法人では、当初から各自が農業用機械などを持ち寄りながら活動しておりますが、今後は農業に必要な設備が揃った倉庫などの拠点づくりを行っていく予定です。法人設立から間もないため、まだまだ地域の農地を守るためにどんなことができるのかを探っている段階です。企業の方の

色々なアイデアや提案、意見をぜひいただき、今後の可能性を探っていきたいと思っています。

### ◆新規作物にも挑戦したり、地域の名産品をつくりたい

現在は、米を中心に、農用地の有効利用を図るため小麦や大豆栽培にも取り組んでいます。また東員

町では農閑期を利用した秋冬野菜の露地栽培に取り組む農家が多いことから、新規作物として、ブロッコリーやナバナ、菊の生産にも挑戦しています。

生産した農産物は、JA やその直売所などを通じて販売しています。販売方法も今後検討の必要性を感じています。

また、この地域には特産品がありません。農産物を加工することにより、地域の特産品を作り出したいと考えています。現時点では、栽培した酒米を利用した日本酒づくりなどができると思っています。

### ◆地域のつながりが残る元気なまち

東員町は子育ての制度が充実しており、暮らしやすいことから近年、人口が増加しています。

一方で、昔から農業をしてきた地域も多く、新旧の住民が交流しながら活気のあるまちを形成しています。山田地区にはお盆に地域住民が山車を曳くなど、伝統的な祭りも残っています。



# 上ノ村環境保全プロジェクト【津市白山町】

## 地域を表すキーワード

- ☑多様な主体が活動に参加
- ☑村のレストラン
- ☑遊休農地の活用
- ☑獣害対策
- ☑人を活かす地域づくり



## 地域・組織の概要



・三重県中部に位置する津市白山町。上ノ村地区は青山高原を見上げる、人口 802 人ほどの小さな集落です。上ノ村地区は、ほとんどが兼業農家ですが、高齢化や獣害等の影響で農業離れが進み、遊休農地の増加等が課題となっています。

・そこで自治会の有志が中心となり、田んぼを守り、全住民による地域づくりを目指し、平成 21 年に「上ノ村環境保全プロジェクト」(通称「KKP」) を設立。景観形成、農業施設の管理、獣害対策だけでなく、学生や企業など地区外との連携活動にも積極的に取り組んでいます。

## 地域からの呼びかけ

### ◆「ちょうどよい」距離感と、

### 企業・農村双方に精通したコーディネーターの存在が魅力です

上ノ村地区は、市街地や最寄りの I C から車で 15 分程度、近くに近鉄の駅もあります。例えば、半日農作業体験などをしても訪れやすく帰りやすい環境が整っています。また地域には、企業との連携活動の経験のあるコーディネーターがおり、地域との意思疎通がとりやすいのも魅力です。



### ◆企業や学生との連携実績があります

KKP では、住民だけでなく、学生や企業を巻き込んで元気な地域づくりを目指しています。大学生と一緒に休耕田の復活、獣害対策、農業機械の再生利用、情報発信、集会所のピザ釜作りなどに取り組んでいます。また過去には企業の福利厚生の一環として遊休農地を活用した米作りをサポートしたり、現在は、企業とともにゴマ栽培に取り組むなど、様々な活動をしています。

### ◆地域の農地を守るために、様々な活動をして成果につなげています

KKP では、獣害対策として 8km の侵入防止柵を設置し、農作物の被害が減少しています。また水路の維持管理も担うことで住民の負担が軽減され、農家の後継ぎが転職して就農するなど、少しずつ成果が生まれています。また住民の主体的な活動や場づくりも応援しています。KKP の活動を通じて、「食」と「農」に関心をもった母親が「まめっこ」(サークル) を結成し、子ども達と一緒に休耕田を活用した大豆栽培を行い、味噌や豆腐等の加工も行っています。休耕田への景観植物の植栽や里山の遊歩道の整備など、地域活動のさまざまなメニュー(活動)があり、多様な関わり方ができるのが魅力です。またそれらの取組みが評価され「平成 29 年度農林水産祭 豊かなむらづくり部門」農林水産大臣賞を受賞しています。またこの地域で「やりたい」アイデアがあれば、地域の人と一緒に考え、実現しやすい環境も整っています。



### ◆月に一度の「村のレストラン」

KKP の呼びかけで、料理の得意な女性が地区の集会場です月に一度コミュニティレストランを始めました。開催日には、地区内外から 40~50 人のお客さんが訪れ、11:30 にオープンすると、12:00 にはメインの料理がなくなってしまうほどの人気ぶりです。



# 波瀬むらづくり協議会【松阪市飯高町】

## 地域を表すキーワード

- ☑遊休農地の活用
- ☑クレソン栽培
- ☑休校の跡地利用
- ☑豊かな自然



はせ  
波瀬むらづくり協議会

## 地域・組織の概要

県のほぼ中央に位置する松阪市。波瀬地域はその西端、奈良県との県境にあります。周りを1000m級の山々に囲まれ、面積の9割以上を山林が占める山間地域で、櫛田川の源流を中心に林地が広がり、吉野林業の流れをくむ技術によって、全国有数の良質材の産地として知られています。

しかし、近年では林業の衰退、過疎高齢化、遊休農地の増加、平成19年に休校した波瀬小学校の活用といった課題を抱えていました。それらを行政に頼るのではなく「自分たちでできることは自分たちで解決しよう」と設立されたのが「波瀬むらづくり協議会」です。現在は、森林に囲まれた地域の特性や先人の知恵、風土、気候、歴史遺産、住民性を活かしながら、地域外の人々との活発な交流を通じて、より暮らしやすい地域づくりに向けて行動しています。



## 地域からの呼びかけ

### ◆地域外との交流を大切にしています

少子化が進む波瀬地域では、地域外の人との活発な交流を通じて、元気な地域づくりに取り組んでいます。市内外から子どもたちの体験学習や合宿を受け入れるほか、被災地支援として福島子どもたち迎えるサマーキャンプや関西学院大学の学生と一緒に限界集落活性化プロジェクトに取り組むなど、多様な人や組織、新しい発想を柔軟に受け入れてきた実績があります。



### ◆「クレソン栽培」など遊休農地の活用に力を入れていきたい

遊休農地を再生し、きれいな谷の水を使ってクレソン栽培に取り組んでいます。現在、近隣だけでなく、東京の百貨店にも販路を拡大するなど、波瀬ブランドとして定着しつつあります。今後は、クレソンを使った加工品を開発するなど、6次産業化にも取り組み、需要を拡大したいと考えています。加工品づくりに一緒に取り組んでくれる企業を探しています。他にも水田を再生し、谷の水で育てた米づくりや、スギシメジ（写真左）の生産等にも取り組んでいます。



過疎高齢化により遊休農地が増え続けるなかで、農地を活用してくれるような企業も募集しています。

### ◆活動拠点「波瀬ゆり館」と「生きるを学ぶ」体験学習プログラム

休校中の波瀬小学校を「波瀬ゆり館」と名付け、体験学習プログラムの拠点として有効利用しています。波瀬地域で長年培われた技術や知識を多くの人に知ってもらおうと、地域住民自らが達人（インストラクター）となって、地域の自然や文化、歴史、産業などを教えるプログラムです。山を育て、自然を守る大切さや、木材の利用、人の暮らしと山との関わり、川の大切さ、郷土料理などを体験を通して学ぶことができます。夏休みには毎年1000人以上の子どもが訪れています。



### ◆自然だけでなく文化や歴史も残る地域です

地域内を紀州街道が通り、名所・旧跡なども多く残ります。またこの地域で咲くヤマユリ「波瀬ゆり」の保護などにも取り組んでいます。



# 清し有田佐田沖環境保全会【玉城町】

## 地域を表すキーワード

- ☑遊休農地の活用
- ☑近隣小学校の農作業等体験
- ☑農地・里山の保全
- ☑遊歩道の整備
- ☑獣害対策



## 地域・組織の概要

三重県度会郡玉城町は伊勢神宮のある伊勢市に隣接しており、古来より伊勢神宮の宿場町として、また参宮街道、初瀬街道、熊野古道などが交わる要衝として、多くの人や文化が行き交い賑わいました。「清し有田佐田沖環境保全会」は、有田地区・佐田地区の11集落のエリアで活動しています。主な活動は、農地・水路などの地域資源の保全管理、地域や学校・福祉施設等と連携した農村環境保全活動など。集落の垣根なく、誰でも参加できる「有田佐田沖共同活動サポート隊」の設置により、地域の女性や学校などの参加が多いのも特徴です。



## 地域からの呼びかけ

### ◆里山保全と一緒に取り組んでくれる企業を募集しています



・地域の農地を守るために、今後里山保全に力を入れていきたいと考えています。昔は里山の資源を共同で管理し、利用する仕組みがありましたが、現代では産業構造や生活様式の変化によってそういった仕組みが薄れつつあります。さらに農業者の減少や高齢化によって人の手が入らなくなったことから、耕作放棄地の増加やイノシシ、アライグマなどの獣害被害の発生、竹林の増殖や雑草の放置による景観の質の低下、多様な生物の生息・生育環境の喪失などの問題が発生しています。

・これらの状況に危機感を感じ、まずは地域住民が中心となり、西部にある里山の現状把握をするために、里山ウォーキングを通じた獣害被害の確認や、三重大学の学生と一緒に里山調査などに取り組んできました。

・今後はこれらの調査結果を活かし、里山の価値をもう一度見つめ直し、里山保全に関心を持つ地域内外の企業・団体・行政などと連携しながら、里地里山の保全に取り組んでいきたいと考えています。



### ◆例えばこんな活動を考えています

例えば、次のような取り組みを考えています。

#### ・景観・環境保全のための取り組み

放置された谷津田（谷地にある田んぼのこと）を活用して、ホテル、チョウ、トンボなどが棲むビオトープづくり、竹林の整備とタケノコ掘り・試食会の開催

#### ・耕作放棄地解消のための対策

多様な主体が参加し放棄地に春に咲く花を植える里山ガーデニングコンテスト、無農薬栽培、自然栽培を志向する団体等への農地再生・生産活動の場の提供

#### ・フットパス（歩くことを楽しむための道）の整備

里山周辺の地域文化・歴史・景観等を調査し、それらを散策ルートとしてつなげることでたくさんの方が気軽に訪れられる里山にする など

・また他のアイデアも多様な人と一緒に考え、積極的に取り入れていきたいと考えています。





# 種生区活性化計画推進委員会【伊賀市種生地区】

## 地域を表すキーワード

- ☑ 廃校の活用
- ☑ 遊休農地の活用
- ☑ ホタルの里づくり
- ☑ 里山保全
- ☑ 伝統行事の担い手



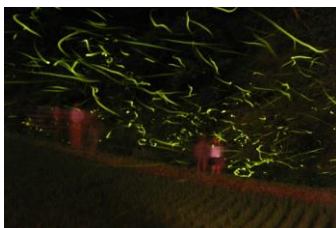
## 地域・組織の概要

・三重県西部に位置する伊賀市。種生地区は市の中でも最も小さな集落です。山間に田んぼや集落があり、昔話に出てきそうな日本の山里の原風景が広がっています。現在、地区は79戸約200人が住み、ほとんどが60歳以上という少子高齢化が進む地域です。

・「種生区活性化計画推進委員会」では、種生地区の持続可能な地域づくりを目指してが地域資源を活かしたさまざまな活性化事業に取り組んでいます。

## 地域からの呼びかけ

### ◆環境の良さを活かしてホタルの里づくりに取り組んでいます



地区外の人を呼び込もうと水路を整備し、約500mのホタル水路をつくりました。毎年6月中旬にホタル祭りを開催しており、シーズンには400名以上の人が訪れる名所となっています。源流のきれいな水を下流に引き継ぐという環境啓発の意味もあります。しかし近年では、住民の高齢化により水路の維持管理や、遊歩道の草刈りなどの継続が難しいという課題も



生まれています。

### ◆博要の丘（旧博要小学校）が活用できます

平成15年に廃校となった博要小学校の半分を地域住民の手で改装。『博要の丘』と名付け、地域おこしの拠点として活用しています。ここは伊賀地方で唯一残っている木造校舎です。現在は都会に住む子どもたちの田舎の暮らしの体験場所やスポーツ少年団等のキャンプ、グラウンドはホタル祭りやマルシェなどに活用されています。給食室が炊事場となったり、五右衛門風呂があったり、教室がホールとして利用できたりと、懐かしい趣の校舎で自然を感じながら、のびのびと過ごすことができます。今後の課題は残り半分の校舎を活用できるようにすることです。現状では耐震等の改修工事が必要ですが、資金面、人手等の問題からまだ手がつけられていません。



### ◆伝統のお祭りや史跡などの豊かな文化もあります



地区の中心にある種生神社では、古くから伝わる秋祭りに行われる神事があります。獅子神楽、神輿、こたつき、相撲旗、馬駆けが約100mを練り歩きます。特に山間部では珍しい船形だんじりが見られるなど、伊賀の珍祭と言われ、毎年沢山の人が訪れます。しかし、人手不足によって神輿の担ぎ手などを地区外から力を借りることもあります。また随筆「徒然草」の著者である吉田兼好の終焉伝説の残る地として、ゆかりの史跡もみられます。



筆「徒然草」の著者である吉田兼好の終焉伝説の残る地として、ゆかりの史跡もみられます。

### ◆農地を未来に継承していきたい



現在はまだ耕作放棄地はそれほど多くありませんが、今後、高齢化が進むと放棄地が増加していきます。種生地区は水源に近く、山の栄養豊富なきれいな水で育った伊賀米は伊賀市内でも有数の味の良さを誇ります。近年では、移住者に耕作放棄地を提供して、有機農法を応援するなどの取り組みもしています。耕作放棄地を活用して米作りなどに取り組む企業も募集しています。